（別添様式４）

# 令和６年度　学校評価実施報告書

学校名（京都市立久世中学校）

| 教育目標 |
|---|
| 自ら学び、自他を認め、未来を創造する生徒の育成 |

| 年度末の最終評価 | |
|---|---|
| 自己評価 | 教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し<br>一昨年より、「誇りの持てる学校作り」を提唱し、保護者や地域から認められる学校を目指そうと子どもたちに呼びかけを行い、生徒会を中心にあいさつや服装等を向上させる取り組みをしてきてくれた。また、学力向上に向けての意識付けや授業改革にも取り組み、徐々にその兆しが見えてきた。アンケート結果にも示されているように、昨年度結果に比べ数値が向上している項目が多く、取り組みの成果が現れてきている。次年度においては、確認プログラムの有効活用などに着手し、さらなる学力向上と共に「久世中ブランド化」に向けて取り組みを進めていきたい。<br>さらに、小中連携においては「久世スタンダード」の見直しをプロジェクトチームによって推進させ、久世三校での児童生徒育成につなげていきたい。 |
| 学校関係者評価 | 学校関係者による意見・支援策<br>久世地域の今後を見通すと人口の流入・増加、土地の価格高騰、住人の経済力上昇等が予測される地域であるといえる。このことは一方で経済格差や地域・学校へのニーズ等で二極化が懸念され、ともすると地域の分断を起こしかねない要素も含んでいる。その中で久世三校は学校を中心として、具体的な取組や様々な価値観をもった児童生徒・保護者の多様性を認め、今後ますます「久世は１つ」を合言葉に地域をまとめていく役割が求められていくのではないだろうか。 |

学校関係者評価の評価日・評価者

| | 評価日 | 評価者 |
|---|---|---|
| 中間評価 | １１月１日 | 共同機構久世学校運営協議会 |
| 最終評価 | ２月１９日 | 共同機構久世学校運営協議会 |

（１）「確かな学力」の育成に向けて　『学力向上プラン』

| 重点目標 |
|---|
| 「予測･計画する力」「批判的に考える力」「多面的に考える力」「コミュニケーション力」「協力する姿勢」「自らふりかえる姿勢」の育成 |
| 具体的な取組<br>①6つの資質能力を育成する授業の推進<br>身に付けさせたい資質能力の育成を目的とした授業の研究を進め、そのテーマにおける研究授業･研究協議を行い、学校全体での意思統一を図る。<br>②小中連携の推進<br>６つの資質能力の育成に繋がる「総合的な学習の時間」での探究学習を、小中連携して９年間のカリキュラムとして構築することを目指す。 |

（取組結果を検証する）各種指標

③学校評価アンケートの数値

６つの資質能力の育成に関する質問項目の数値で見る。

19 見通しを持って計画を立てることができていると思いますか。

20 「これでいいのか？」「本当に正しいのか？」など色々なことに疑問を持つことができていると思いますか。

21 1つのことを色々な視点から考えることができていると思いますか。

22 自分の気持ちや考えを伝えたり、他者の気持ちや考えを聞いたり、コミュニケーションがとれていると思いますか。

23 自分は仲間と協力して物事を進めようとしていますか。

24 自分は様々な場面でよかった点や悪かった点などを見つめなおそうとしていますか。

中間評価

各種指標結果

〇学校評価アンケートの数値結果

19 見通しを持って計画を立てることができていると思いますか。

（実現度）１年→4.3　２年→4.9　３年→4.9

20 「これでいいのか？」「本当に正しいのか？」など色々なことに疑問を持つことができていると思いますか。

（実現度）１年→5.3　２年→5.6　３年→5.6

21 1つのことを色々な視点から考えることができていると思いますか。

（実現度）１年→4.8　２年→5.3　３年→5.3

22 自分の気持ちや考えを伝えたり、他者の気持ちや考えを聞いたり、コミュニケーションがとれていると思いますか。

（実現度）１年→5.3　２年→5.5　３年→5.5

23 自分は仲間と協力して物事を進めようとしていますか。

（実現度）１年→5.4　２年→5.9　３年→5.9

24 自分は様々な場面でよかった点や悪かった点などを見つめなおそうとしていますか。

（実現度）１年→5.2　２年→5.7　３年→5.7

自己評価

分析（成果と課題）

上記の結果から、「6 つの資質能力」の育成に繋がるような学校としての取り組みや行事の目的の整理、生徒達への様々な仕掛けがより必要であることがわかった。特に「予測・計画する力」を育成するための取り組み、仕掛けは工夫が必要である。

分析を踏まえた取組の改善

〇教職員全体の「6 つの資質能力」への意識を高めることによって、学校行事や日々の取り組み、授業の中で「6 つの資質能力」の育成に繋がる工夫を各教職員が考え、実行していく状況を作っていく。

〇「予測・計画する力」の育成に関しては、「テスト前学習計画表」や「長期休み計画表」など学習マネジメント能力の育成を通じて高めていける工夫をしていく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

学校評価アンケートの数値

６つの資質能力の育成に関する質問項目の数値で見る。

| | |
|---|---|
| | 19 見通しを持って計画を立てることができていると思いますか。<br>20 「これでいいのか？」「本当に正しいのか？」など色々なことに疑問を持つことができていると思いますか。<br>21 1つのことを色々な視点から考えることができていると思いますか。<br>22 自分の気持ちや考えを伝えたり、他者の気持ちや考えを聞いたり、コミュニケーションがとれていると思いますか。<br>23 自分は仲間と協力して物事を進めようとしていますか。<br>24 自分は様々な場面でよかった点や悪かった点などを見つめなおそうとしていますか。 |
| 学校関係者評価 | 学校関係者による意見・支援策<br>新たな学校教育目標となり、久世中学校で身に付けさせたい資質・能力が明確化され、教職員全員が具体的に生徒達にどのような力をつけてほしいのかを語れるようになった。「久世スタンダード」の見直しを含めて、9年間を見通した児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を改めて整理し，その資質・能力を身に付けることに向けて取り組みを精査していく必要がある。 |

最終評価

| | |
|---|---|
| | （中間評価時に設定した）各種指標結果<br>○学校評価アンケートの数値結果　※実現度の数値は最高で7<br>19 見通しを持って計画を立てることができていると思いますか。<br>（7月調査実現度）1年→4.3　2年→4.9　3年→4.9<br>（12月調査実現度）1年→4.3　2年→4.9　3年→4.9<br>20 「これでいいのか？」「本当に正しいのか？」など色々なことに疑問を持つことができていると思いますか。<br>（7月調査実現度）1年→5.3　2年→5.6　3年→5.6<br>（12月調査実現度）1年→5.3　2年→5.6　3年→5.6<br>21 1つのことを色々な視点から考えることができていると思いますか。<br>（7月調査実現度）1年→4.8　2年→5.3　3年→5.3<br>（12月調査実現度）1年→4.8　2年→5.3　3年→5.3<br>22 自分の気持ちや考えを伝えたり、他者の気持ちや考えを聞いたり、コミュニケーションがとれていると思いますか。<br>（7月調査実現度）1年→5.3　2年→5.5　3年→5.5<br>（12月調査実現度）1年→5.3　2年→5.5　3年→5.5<br>23 自分は仲間と協力して物事を進めようとしていますか。<br>（7月調査実現度）1年→5.4　2年→5.9　3年→5.9<br>（12月調査実現度）1年→5.4　2年→5.9　3年→5.9<br>24 自分は様々な場面でよかった点や悪かった点などを見つめなおそうとしていますか。<br>（7月調査実現度）1年→5.2　2年→5.7　3年→5.7<br>（12月調査実現度）1年→5.2　2年→5.7　3年→5.7 |
| 自己評価 | 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題<br>上記の6つのアンケート項目において、どの項目において 7 月調査から12月調査への変化は見られなかった。あくまでも平均であるので、個々の生徒の答えの上がり下がりは見られないが、全体として見た場合には、変化なしという結果であった。学校として、6つの資質能力の育成への取り組みが、まだまだ不十分であるところがあるので、このような結果になったと思われる。教職員への意識付けは進んでいると思うが、生徒達に6つの資質能力をどう育成させていくかが、次年度への課題であると思われる。 |

| | |
|---|---|
| | 分析を踏まえた取組の改善<br>・6つの資質能力を育成する授業の研究・推進<br>・6つの資質能力の育成への学校行事や各種取り組みの修正 |
| 学校関係者評価 | 学校関係者による意見・支援策<br>学力向上を検証する指標について、学力を上げることと学習確認プログラムや全国学力・学習状況調査の結果を上げることは必ずしも同義とはならない。一方で基礎学力を生徒に身に付けさせるのは学校の責務でもあるので、目的を絞り込んで結果をモニタリングしていく必要がある。一概に学校全体の平均点を見るのではなく、家庭の経済状況による学力差ＳＥＳ（ソーシャル・エコノミクス・ステイタス）により著しく不利な状況となっている生徒がいないかを丁寧にみとっていく必要がある。また生徒達に身に付けさせたい６つの資質・能力のうち、まずは重点的に取り組むべき資質・能力として１つ２つに絞って取り組んでいく必要がある。また学力保障（最低限つけなければならない学力）の目標を設定し、その目標を何%の生徒が通過しているのか（通過率）を検証する必要がある。 |

（２）「豊かな心」の育成に向けて

| |
|---|
| 重点目標<br>①生徒の自己有用感を高め、自尊感情を育てる「ピア・サポート」事業の継続<br>②「おもてなしの心（目の前の人を大切にする精神）」の育成<br>③道徳教育の充実 |
| 具体的な取組<br>①体験的な活動を通してこども子どもたちの社会性を育む手段として、「ピア・サポート」活動に継続して取り組む。<br>・他者との関わりの中で、参加するすべての生徒が自己有用感を獲得するよう、年齢の差、経験の差を利用したお世話活動を展開する。（中学生と園児など）<br>・そこで得た意欲や感情を定着させるため、十分な事前・事後学習の場を準備する。<br>・行事だけでなく、日常の学校生活や授業の中で自己有用感を高められるような声かけや働きかけを行う。<br>・校内に３年生をリーダーとした好ましい関係を構築するため、3年間を見通した取組の中で育てる。<br>②「久世教育機関協働協議会」（保育園、小学校、中学校、児童館、図書館）が協働して、あいさつと読書を中心に取り組み、育ちと学びの連続性を高める。<br>③「あいさつ」を通して、人と人とのつながりを大切にするなど、コミュニケーション能力を育成する |
| （取組結果を検証する）各種指標<br>①学校評価アンケート<br>6「楽しく学校生活を送っていますか」（生徒）<br>7「自分から進んで、気持ちよくあいさつをしていますか」（生徒）<br>8「学校や社会のルールやマナーを守ることを心がけていますか」（生徒）<br>9「相手の気持ちを考えて行動していますか」（生徒）<br>13「クラスや学校の活動や生活の中で、人の役に立っていると感じていますか」（生徒）<br>14「自分には、よいところがあると思いますか」（生徒）<br>15「今の自分が好きですか」（生徒） |

中間評価

<table>
<tr><td colspan="2">各種指標結果<br>学校評価アンケート<br>⑥「楽しく学校生活を送っていますか」<br>１年：5.9　２年：6.3 +0.4　３年：5.9 +0.2<br>⑦「自分から進んで、気持ちよくあいさつをしていますか」<br>１年：5.2　２年：5.4 -0.1　３年：5.3 +0.2<br>⑧「学校や社会のルールやマナーを守ることを心がけていますか」<br>１年：5.7　２年：6.1 +0.4　３年：5.8 ±0<br>⑨「相手の気持ちを考えて行動していますか」<br>１年：5.5　２年：6.1 +0.5　３年：5.6 +0.2<br>⑬「クラスや学校の活動や生活の中で、人の役に立っていると感じていますか」<br>１年：4.4　２年：4.8 +0.5　３年：4.6 +0.5<br>⑭「自分には、よいところがあると思いますか」<br>１年：4.7　２年：5.1 +0.7　３年：4.7 +0.6<br>⑮「今の自分が好きですか」<br>１年：4.7　２年：4.8 +0.5　３年：4.6 +0.3</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自己評価</td><td>分析（成果と課題）<br>２・３年生における昨年度との比較を見ると２年生の「自分から進んで、気持ちよくあいさつをしていますか」が-0.1、３年生の「学校や社会のルールやマナーを守ることを心がけていますか」が±0 以外はすべてにおいて上昇している。「「久世中ブランド化計画」と銘打って、子どもたちに地域に誇れる学校作りをしようと呼びかけている効果が出ており、子どもたちの中で積極的な改善ができているものと思われる。これからもピア・サポート活動の推進に取り組み、自己有用感や自己肯定感の向上を目指していければと思う。<br>また、今年度から学校教育目標を改編し、子どもたちにつけたい資質・能力を明確に打ち出したことで、学力向上だけでなく多面的に考える力や協力すること、自らを振りかえることなどができるようになってきたのではないかと推測する。</td></tr>
<tr><td>分析を踏まえた取組の改善<br>３年生においては「久世中ブランド化」を言い始めて３年目となり、行事や委員会活動などで子ども自らが提唱するなど、ずいぶんと理念が定着してきた。１・２年生においても引き続き機会あるごとに提唱し、子どもたちの意識の中に定着し、行動の改善につながるよう働きかけていきたい。また、今年度から改編した学校教育目標と、それを元に子どもたちにつけたい資質・能力の育成に力を入れ、学校全体がその目標に向かって取り組みを進められるようにしていきたい。<br>さらに、３校で取り組んでいる「久世スタンダード」の改編にも取り組み、小中一貫して取り組める、改善された目標を設定していきたい。</td></tr>
<tr><td>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標<br>学校評価アンケート<br>⑥「楽しく学校生活を送っていますか」</td></tr>
</table>

| | |
|---|---|
| | ⑦「自分から進んで、気持ちよくあいさつをしていますか」<br>⑧「学校や社会のルールやマナーを守ることを心がけていますか」<br>⑨「相手の気持ちを考えて行動していますか」<br>⑬「クラスや学校の活動や生活の中で、人の役に立っていると感じていますか」<br>⑭「自分には、よいところがあると思いますか」<br>⑮「今の自分が好きですか」 |
| 学校関係者評価 | 学校関係者による意見・支援策<br>ほとんどの項目において学校評価アンケートの結果が上昇していることから取り組んでいる方向性は間違っていないように思える。「久世中学校をブランドにしよう」という言葉が生徒会本部役員選挙でも生徒達自身の言葉で語られるようになり浸透してきている。教職員の働き方改革ともリンクするが教職員と生徒達の日々のコミュニケーションを活性化することができれば、生徒達のさらなる自己有用感の獲得につながってくのではないかと考える。 |

最終評価

| | |
|---|---|
| 各種指標結果<br>学校評価アンケート<br>⑥「楽しく学校生活を送っていますか」<br>1年：6.1(+0.2)　2年：6.4(+0.1)　3年：5.9(±０)<br>⑦「自分から進んで、気持ちよくあいさつをしていますか」<br>1年：5.1(−0.1)　2年：5.6(+0.2)　3年：5.4(+0.1)<br>⑧「学校や社会のルールやマナーを守ることを心がけていますか」<br>1年：6.1(+0.4)　2年：6.4(+0.3)　3年：6.1(+0.3)<br>⑨「相手の気持ちを考えて行動していますか」<br>1年：5.7(+0.2)　2年：6.0(−0.1)　3年：5.7(+0.1)<br>⑬「クラスや学校の活動や生活の中で、人の役に立っていると感じていますか」<br>1年：4.4(±０)　2年：5.0(+0.2)　3年：4.5(−0.1)<br>⑭「自分には、よいところがあると思いますか」<br>1年：4.7(±０)　2年：5.2(+0.1)　3年：5.0(+0.3)<br>⑮「今の自分が好きですか」<br>1年：4.4(−0.3)　2年：4.8(±０)　3年：4.8(+0.2) | |
| 自己評価 | 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題<br>今回のアンケート結果を見ると、全学年どの項目においても増加傾向にあり、減少している項目も、前年度調査の結果と比べると全項目において上昇していることがわかる。これは大変喜ばしい結果であり、この三年間取り組んできた、「誇れる学校作り」の取組の成果であると確信できる。学校教育目標の改編計画から、全教職員で取り組み、意識改革してきたことが、子どもたちへの働きかけにつながり、子どもたちの意識および行動変容へとつながっていると推察する。<br>今後は「誇れる学校作り」から「誇れる自分作り」へ駒を進めることができるよう、教職員が同じ目標に向けて働きかけ、意識・行動変容を促すことができるような取り組みをしていきたい。 |
| | 分析を踏まえた取組の改善<br>項目13「クラスや学校の活動や生活の中で，人の役に立っていると感じていますか」項目16の「今の自分が好きですか」は、各学年とも低い数値になっており、経年変化を見ても常に低い |

| | |
|---|---|
| | 値であることから、項目の文言あるいは問い方に原因があるかもしれないという推察の元、次年度から三校で項目（文言）の変更を検討する必要がある。<br>　また、ピア・サポートの取り組みも長年続けてきているが、この活動の有効性なども、これらの結果や働き方改革などを踏まえ、取り組み内容や形態を検討する時期にきているかもしれない。 |
| 学校関係者評価 | 学校関係者による意見・支援策<br>**　久世三校の共通目標である「あいさつ」について、教職員のみニーズ度が高い結果が見られた。これは日常的なあいさつだけでなく、部活動やあらたまった場面でのあいさつ等、生徒に社会人としての「あいさつ」を指導する必要があると感じている教職員の思いを反映している。**<br>**　「今の自分が好きですか」と問うアンケートの文言は学校評価アンケートに限ったことではなく日本人の資質として低い値が見られることが多い。たとえ低い値でも構わないので経年変化をみとるためにも文言を変更するのは得策とはいえない。** |

（３）「健やかな体」の育成に向けて

| |
|---|
| 重点目標<br>　①基本的生活習慣の確立<br>　②保健教育の充実 |
| 具体的な取組<br>①「久世教育機関協働協議会」より、「早寝・早起き・朝ごはん」及び「あいさつ」「家庭内のコミュニケーション」運動を展開することにより、望ましい生活習慣を自ら実践する力を育てる取組の充実を図る。<br>②非行防止教室を各学年で計画的に実施し、正しい知識を知り、自分で正しい判断ができるようにする。<br>③健康診断の結果と姿勢・からだと運動・生活習慣と疾病などの保健指導を行い、実践研究を進める。 |
| （取組結果を検証する）各種指標<br>①学校評価アンケート<br>　　10「毎日、朝ごはんを食べていますか」（生徒）<br>　　11「７時間以上睡眠時間をとっていますか」（生徒）<br>　　16「学校であったことを、家の人に話していますか」（生徒）<br>②薬物乱用防止、非行防止、ＳＮＳなど各種教室の開催。 |

中間評価

| | |
|---|---|
| | 各種指標結果<br>①　10「毎日、朝ごはんを食べていますか」（生徒）　…１年：6.3　２年：6.5　３年：5.9<br>　　11「７時間以上睡眠時間をとっていますか」（生徒）　…１年：5.4　２年：5.5　３年：4.9<br>　　16「学校であったことを、家の人に話していますか」　…１年：6.0　２年：6.4　３年：6.0<br>②　１２月９，１０，１１日で全学年非行防止教室の実施が決定している。 |
| 自己評 | 分析（成果と課題）<br>　　朝ごはんと睡眠時間に関して、３年生が「とれている」と答える生徒が少ない傾向にある。<br>　　非行防止教室では、事前に南警察署と打ち合わせを行い、学年の実態に合わせて内容を決め |

| | |
|---|---|
| 価 | ていくことで、生徒の「正しい判断力」を養うことを意識した取り組みになる。 |
| | 分析を踏まえた取組の改善<br>３年生の朝ごはんや睡眠時間がとれていない状況は、例年の課題であると考える。これについては、各委員会や生徒会と連携し、生徒自らが生活習慣を改善していける取り組みが必要である。また、生徒だけでなく、保護者への取り組みも必要不可欠である。 |
| | （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標<br>学校評価アンケート<br>10「毎日、朝ごはんを食べていますか」（生徒）<br>「子どもに毎日、朝ごはんを食べさせること」（保護者）<br>11「７時間以上睡眠時間をとっていますか」（生徒）<br>「子どもに７時間以上睡眠をとらせること」（保護者）<br>16「学校であったことを、家の人に話していますか」（生徒）<br>「子どもと学校での出来事などについて話をすること」（保護者）<br>薬物乱用防止、非行防止、ＳＮＳなど各種教室の開催後のアンケート |
| 学校関係者評価 | 学校関係者による意見・支援策<br>子ども達を取り巻く生活環境の変化で外に出て思いっきり体を動かすことが少なくなってきている。スマートフォンや SNS 等に多くの時間が使われていないかが懸念される。またそれらの使用によって生徒間トラブルになる事案もあり、南警察署の非行防止教室等で正しい使い方の指導をすると同時に、PTA 活動を通して保護者間や地域の連携を強化し、家庭での過ごし方や睡眠の大切さを啓発する活動にも取り組んでいく必要がある。 |

最終評価

| | |
|---|---|
| | （中間評価時に設定した）各種指標結果<br>10「毎日、朝ごはんを食べていますか」（生徒）　…１年：6.3　２年：6.4　３年：5.8<br>「子どもに毎日、朝ごはんを食べさせること」（保護者）…重要度：6.8　実現度：6.2<br>11「７時間以上睡眠時間をとっていますか」（生徒）…１年：5.5　２年：5.4　３年：4.9<br>「子どもに７時間以上睡眠をとらせること」（保護者）…重要度：6.6　実現度：5.1<br>16「学校であったことを、家の人に話していますか」（生徒）…１年：5.4　２年：6.2　３年：5.0<br>「子どもと学校での出来事などについて話をすること」（保護者）…重要度：6.2　実現度：5.1 |
| 自己評価 | 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題<br>・南警察署と連携して、学年毎に非行防止教室（スマホの正しい使い方の内容含む）を年１回おこなうことで、スマホ関連の問題行動や SNS でのトラブル等の減少に効果があると考えられる。また、長期休み前の終業式での全体指導や各クラスでの指導など様々なタイミングでの指導も引き続き、おこなうことでより効果が上がると考えられる。次年度も継続していきたい。<br>・生徒・保護者アンケートに「７時間以上の睡眠」とあるが、中学生には８時間の睡眠時間が推奨されている。（学校保健委員会から）また、「睡眠の質」も重要であり、就寝前にスマホやタブレットなどのデジタル機器を見ている生徒は、全学年とも８～９割であった。（学校保健委員会から）<br>・今年度から学校保健委員会に保護者も参加できるようになり、２５名程度の参加があった。生徒への保健教育を学校と家庭でおこなっていける非常に良いきっかけになったと考える。<br>・アンケート項目の結果については、生徒・保護者ともに比較的高めの数値をキープしている。 |

| | |
|---|---|
| | また、昨年度と比べて、数値の大きな変化は無かった。 |
| | 分析を踏まえた取組の改善<br>・非行防止教室や長期休み前の全体指導・クラス指導を引き続き、継続しておこなう。<br>・学校保健委員会と連携して、生徒と保護者へ様々な保健指導をおこない、生活習慣の改善に繋げていく。 |
| 学校関係者評価 | 学校関係者による意見・支援策<br>**スマートフォンやＳＮＳ等の使用時間が長いことから、久世三校の共通目標である「読書」や「家庭学習」がおろそかになっている現状がある。来年度以降もＰＴＡ活動とも連携しながら学校保健委員会で生徒の現状の分析と課題解決へ向けた啓発など家庭と連携した取り組みが必要である。その他、性教育については保護者間での課題意識が高く、今年度家庭教育講座でおこなった保護者向け性教育の研修は大変有意義であった。地域や保護者、学校が共通の目的意識を持ちながら教育活動に生かしていくことを三校で確認していく必要がある。** |

**（４）学校独自の取組**

| |
|---|
| 重点目標<br>①久世学区が基盤とする久世スタンダード「自分で考えて行動する子どもの育成」を推進する。<br>②生徒の自己有用感を高め､自尊感情を育てる「ピア・サポート」事業の継続・展開。 |
| 具体的な取組<br>①小中合同教科主任会､小中合同授業研修会の充実。<br>②共同機構久世学校運営協議会（小中合同）の充実。<br>③学校運営協議会を支える学校支援推進委員会の充実。<br>④体験的な活動を通してこども子どもたちの社会性を育む手段として､「ピア・サポート」活動に継続して取り組む。 |
| （取組結果を検証する）各種指標<br>①学校評価アンケート<br>19「久世三校が小中一貫教育を大切にしていること」（保護者・教職員）<br>②小中３校合同教務主任会、研究主任会、生徒指導主任会、合同授業研修会の実施回数。 |

中間評価

| | |
|---|---|
| 各種指標結果<br>・学校評価アンケート<br>15 「ピアサポート」を軸とした小中連携を進めること（実現度）‥保護者無し　教職員 4.6<br>19　久世三校が小中一貫教育を大切にしていること　（実現度）‥保護者 5.0　教職員 4.9 | |
| 自己評価 | 分析（成果と課題）<br>・４月当初に久世三校小中合同研修会を開催し，久世中学校の今枝校長に講演いただき久世地域歴史と変遷や子ども達をとりまく課題の変化について再確認し、共通理解を図った。<br>・８月２２日に久世三校小中合同研修会を開催し、三谷はるよ先生による講演「エースサバイバー」を聴き、分散会では４部会に分かれて意見交流をおこなった。 |
| | 分析を踏まえた取組の改善<br>ピアサポートへの実現度が他項目よりも低い位置にいるため、重要性を共通認識していかな |

| | |
|---|---|
| | ければならない。一方で変わりゆく流れを捉え、ピアサポートの形についても再考していく機会かもしれない。小中連携においては、今後も三校教務主任会や三校生指主任会、三校研究主任会がうまく機能しながら、さらに連携を深めていけるよう改善していかなければならない。 |
| | （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標<br>１．学校評価アンケート<br>15　「ピアサポート」を軸とした小中連携を進めること<br>19　久世三校が小中一貫教育を大切にしていること<br>２．小６を迎える日、小中合同授業研修会（久世西小学校、大藪小学校）の実施 |
| 学校関係者評価 | 学校関係者による意見・支援策<br>１年生の「ふれあいひろば」２年生の「チャレンジ体験」３年生の「修学旅行」というピアサポートに関わる大きな行事が成功に終わり、またその成果を文化祭で探究ポスターセッションできたことは大きな成果である。ただし形に残るものがなければ子ども達の自己有用感は徐々に薄れていくため、自己有用感を感じられるものを学校だよりや学校ホームページ、掲示物で「見える化」していく必要がある。また日々の授業改善の中で「自分には良いところがある」と感じさせていくことができればさらなる向上が予想される。 |

最終評価

| | |
|---|---|
| （中間評価時に設定した）各種指標結果<br>・学校評価アンケート<br>15　「ピアサポート」を軸とした小中連携を進めること（実現度）‥保護者無し<br>教職員 4.6→4.6<br>19　久世三校が小中一貫教育を大切にしていること　（実現度）‥保護者 5.0→4.9<br>教職員 4.9→4.9 | |
| 自己評価 | 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題<br>・５月…１年生「ふれあいひろば」、１１月…３年生「ふれあいタイム」では「『お世話活動』をすることによって自己肯定感があがる」という国立政策研究所・滝教授の助言を元に、小中連携による学校行事を開催した。<br>・１１月には小中教員交流にて、久世中学校の教員が半日、大藪小学校・久世西小学校で参観し、小中の違いや、２小の違いなどを確認し、教職員に伝達・共有することができた。<br>・１２月は「小６を迎える日」を実施。中１ギャップを回避すべく、授業体験・部活動体験を通じて、中学校への意欲を高める取組みとなった。<br>・学校評価アンケートでは、保護者にとって、「ピアサポート」を軸とした小中連携を推進していることが伝わりづらいところがある。広報を工夫しながら、保護者に向けて、小中連携の理解を深めていかなければならない。 |
| | 分析を踏まえた取組の改善<br>・学校運営協議会（ピアサポート推進会議）においては、今後も引き続き「ピアサポート」を軸とした連携が必要なのかを再検討していく。引き続き、実施するならば、教職員の周知徹底を行い、必要性を理解してもらうことができるような研修などを新たに開催する。 |

| | |
|---|---|
| 学校関係者評価 | 学校関係者による意見・支援策<br>生徒の学校評価アンケートを見ると確実にピア・サポートの取組の成果があらわれている。コロナ禍で十分にピア・サポートに取り組めなかった昨年度３年生の学校評価アンケートと比較すると著しい成果であり、また同時にピア・サポートの取組の有用性について検証できたといえる。来年度も生徒達の自己有用感を高める「ピア・サポート」の取組を進めていく必要があるが、国立政策研究所の滝先生の助言やアドバイスを広く教職員で共有し、より効果的な取組へ深化していく必要がある。 |

（５）教職員の働き方改革について

重点目標

①働き方改革の推進による、教職員の心身の健康の保持・増進。

②生徒・教職員双方にとって教育効果が高まる業務改善と具体的な取組の推進。

具体的な取組

①教職員の勤務状況等について出退勤システムの分析による適切な把握。

②具体的な業務改善の取組の推進。

・教職員間の教育ＤＸ推進による効率化や勤務時間を意識した働き方の推進。

（電話業務の時間設定、すぐーるの有効活用）

（取組結果を検証する）各種指標

①学校評価アンケート

20「働き方改革を意識した業務改善を進めること」（教職員）

②出退勤管理システムによる勤務時間管理。

③ストレスチェックの結果分析。

中間評価

各種指標結果

①学校評価アンケート

20「働き方改革を意識した業務改善を進めること」（教職員）実現度 4.4

②出退勤管理システムによる勤務時間管理

◎時間外勤務

| 時間／月 | ４月 | ５月 | ６月 | ７月 | ８月 | ９月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ４５時間以上 | １０名 | １３名 | ９名 | １１名 | ０名 | １２名 |
| ８０時間以上 | ７名 | ４名 | ２名 | ２名 | ０名 | ２名 |
| １００時間以上 | ２名 | １名 | １名 | ０名 | ０名 | ０名 |

| | |
|---|---|
| 自己評価 | 分析（成果と課題）<br>昨年度の学校評価アンケートにおける同じ時期の実現度は４．２から４．４へ上昇しているものの、出退勤管理システムによる時間外勤務の教職員の人数は微増である。勤務時間の削減にはつながっていないものの働き方改革を意識した業務の改善は進んでいるとの見方をしている教職員が増加していると考えられる。<br>勤務時間の削減には、休日部活動の地域移行を進めることが近道であると考えるが、思うように進んでおらず、大きな現状の変化をのぞめる見通しは持てない。 |

| | |
|---|---|
| | 分析を踏まえた取組の改善<br>○定期テストの採点処理ソフト「百問繚乱」の活用による採点時間の削減<br>○校務支援員の活用による作業の削減<br>○留守番電話対応時刻や学校閉鎖時刻の徹底による１９時退勤<br>○「すぐーる」アプリの活用による保護者への連絡業務の削減 |
| | （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標<br>①学校評価アンケート<br>20「働き方改革を意識した業務改善を進めること」（教職員）<br>②出退勤管理システムによる勤務時間管理。<br>③ストレスチェックの結果分析。 |
| 学校関係者評価 | 学校関係者による意見・支援策<br>部活動の地域移行モデル事業によって、女子バレーボール部と男子バスケットボール部で外部企業「スポーツデータバンク社」の協力によって活動することとなった。今までの部活動指導員に加え企業から１名のコーチが派遣され、２名体勢で休日部活動の運営に当たっている。一方で平日は今までと変わらず教職員が部活動指導を行っているので、劇的に働き方改革が進んだとは言いがたい。学校運営協議会では教職員の時間外勤務の長さだけでなく、本来、「先生がやるべきこと」とそうでないこと、「先生がやらなければならないこと」の整理を行う必要があるという意見が出た。 |

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

①学校評価アンケート

20「働き方改革を意識した業務改善を進めること」（教職員）実現度 4.4（昨年度 4.5）

②出退勤管理システムによる勤務時間管理

◎時間外勤務（　）は昨年度

| 時間／月 | ９月 | １０月 | １１月 | １２月 | １月 | ２月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ４５時間以上 | １２名<br>（１０） | １４名<br>（１３） | １２名<br>（９） | １２名<br>（１１） | １０名<br>（７） | １３名<br>（８） |
| ８０時間以上 | ２名<br>（７） | ３名<br>（４） | １名<br>（２） | １名<br>（２） | ０名<br>（０） | １名<br>（０） |
| １００時間以上 | ０名<br>（２） | ０名<br>（１） | ０名<br>（１） | ０名<br>（０） | ０名<br>（０） | ０名<br>（０） |

③ストレスチェックの結果分析

高ストレスの教職員は０名。学校組織全体のストレス度合いも大変低いという結果が示された。

| | |
|---|---|
| 自己評価 | 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題<br>月ごとの時間外勤務の人数をみると、昨年度の過労死ラインとされる８０時間以上の教職員が４５時間から８０時間未満へと減少している。しかし、この４５時間以上８０未満の教職員のほとんどが休日の部活動指導を行っているため、部活動指導の地域移行や授業日数・教育課程の国レベルや京都市教育委員会レベルでの抜本的な改革がない限り、校内努力でこれ以上時間外勤務を減少させるのは限界にきていると感じている。 |
| | 分析を踏まえた取組の改善 |

| | |
|---|---|
| | 採点ソフト「百問繚乱」のさらなる活用<br>教育課程の見直しによる行事の精選<br>「すぐーる」アプリの積極的な活用<br>留守番電話への設定時刻を１８時へ変更<br>学校閉鎖時刻１９時の徹底<br>統合端末持ち帰り申請の奨励 |
| 学校関係者評価 | 学校関係者による意見・支援策<br>おおむね働き方改革が進んでいる。部活動の問題は、教育委員会をはじめ各機関が連携して外部に展開することができれば、教職員の働き方改革はさらに進んでいくと予想される。来年度は電話対応の時間設定を１７：３０とすることを実現したい。<br>また令和６年１１月１日の学校運営協議会にて、理事へリーフレットの配布・動画視聴を行った。通知文に添付のリーフレット活用シナリオを参考に会を運営し、学校での教員の負担軽減や働き方改革、高齢化等による地域行事の担い手不足など、それぞれの課題やその解決に向けた意見交換を行い、地域主催の祭事や体育祭の在り方を見直す中で、教員の動員について整理できた。 |

（６）いじめの防止等についての取組に向けて

| |
|---|
| 重点目標<br>自己肯定感と他者を思いやる心の育成 |
| 具体的な取組<br>「学校いじめの防止等基本方針」に同じ |
| （取組結果を検証する）各種指標<br>①全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。<br>②学校のいじめ対策委員会のメンバーを、生徒に紹介している。<br>③いじめに係る既存の「学校評価：生徒アンケート項目」を活用して、以下の項目を分析する。<br>６「楽しく学校生活を送っていますか？」<br>17「困ったことやいやなことがあったら、友だちやまわりの大人に相談できますか？」<br>18「クラスや学年、学校の仲間を大切にしていますか？」<br>④生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を、全教職員で共有している。<br>⑤保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している |

中間評価

| |
|---|
| 各種指標結果<br>① 16「生徒の悩みを聴いたり、様子が気になる生徒への声掛けをすること」（教職員）の項目に関して、重要度が 6.9 という非常に高い回答であった。実現度は、数値が 5.5 で「できている」との回答が多かった。<br>② ４月の始業式の機会に全校生徒に対して対面で紹介した。<br>③ ６「楽しく学校生活を送っていますか？」 …１年：5.9　２年：6.3　３年：5.9<br>17「困ったことやいやなことがあったら、友だちやまわりの大人に相談できますか？」<br>…１年：5.4　２年：5.5　３年：5.3<br>18「クラスや学年、学校の仲間を大切にしていますか？」 …１年：5.0　２年：5.5　３年：5.3<br>④ 毎週行われる補導係会やいじめ不登校対策委員会、職員会議後の情報共有等で相談内容の共有を図った。 |

| | |
|---|---|
| ⑤　学校ホームページや保護者連絡ツール「すぐーる」で保護者に説明・周知している。 | |
| 自己評価 | 分析（成果と課題）<br>16「生徒の悩みを聴いたり、様子が気になる生徒への声掛けをすること」（教職員）の重要度が高い数値であることから、教職員の組織対応への重要性や理解が高まっている。<br>17「困ったことやいやなことがあったら、友だちやまわりの大人に相談できますか？」で「あてはまらない」と回答した生徒へのさらなる関わりが必要である。 |
| | 分析を踏まえた取組の改善<br>16「生徒の悩みを聴いたり、様子が気になる生徒への声掛けをすること」（教職員）の重要度が高い数値であるだけでなく、実現度もさらにあげていきたい。そのためには、より密な相談内容の共有が必要である。<br>自分の困りや悩みを話すことが出来る周囲の人間の存在が重要である。また、そのような関係を他者と結べるコミュニケーション能力を育まなければならない。　→学校教育目標を意識した教職員の授業展開、日ごろの生徒との関わり、特別活動の展開等。 |
| | （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標<br>①　学校評価：生徒アンケート項目<br>６「楽しく学校生活を送っていますか？」<br>17「困ったことやいやなことがあったら、友だちやまわりの大人に相談できますか？」<br>18「クラスや学年、学校の仲間を大切にしていますか？」<br>②　学校評価：教職員アンケート項目<br>16「生徒の悩みを聴いたり、様子が気になる生徒への声掛けをすること」 |
| 学校関係者評価 | 学校関係者による意見・支援策<br>教職員の働き方改革とも関連するが色々な課題や特性を持っている子が居る中で、落ち着いた学校生活を送れるように、普段から目立たない子にも意識してコミュニケーションをとっていくことが重要である。常に危機感と緊張感を忘ないことと同時に教職員が心に余裕を持って今後も子どもたちが安心して学校生活を送れる環境づくりを推進してほしい。 |

最終評価

| | |
|---|---|
| （中間評価時に設定した）各種指標結果<br>①　学校評価：生徒アンケート項目<br>６「楽しく学校生活を送っていますか？」　１年：6.1　２年：6.4　３年：5.9<br>17「困ったことやいやなことがあったら、友だちやまわりの大人に相談できますか？」<br>１年：4.9　２年：5.5　３年：5.2<br>18「クラスや学年、学校の仲間を大切にしていますか？」　１年：6.0　２年：5.5　３年：5.9<br>②　学校評価：教職員アンケート項目<br>16「生徒の悩みをきいたり、様子が気になる生徒への声掛けをすること」<br>重要度：6.9　実現度：5.4 | |
| 自己評価 | 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題<br>16「生徒の悩みをきいたり、様子が気になる生徒への声掛けをすること」（教職員）の重要度・実現度ともに高い数値である。教職員の年度末の振り返りにも、「生徒への声掛けが重要である」というような内容があった。これを実現するためには、生徒と直接関わること以外の「事務的な |

| | |
|---|---|
| | 業務」を効率よく分担しておこない、教職員の時間・心のゆとりに繋げていきたい。そうすることで、教職員が生徒と関わる時間を増やすことが出来ると考える。（働き方改革と連動） |
| | 分析を踏まえた取組の改善<br>・教職員が学校教育目標を意識した授業や特別活動を展開し、生徒のコミュニケーションの能力の向上を目指す。<br>・学校体制で働き方改革を推進し、全教職員が生徒と関わる時間をさらに増やしていく。そうすることによって、様々な心情の生徒からの「小さなサイン」にも気づくことが出来ると考える。 |
| 学校関係者評価 | 学校関係者による意見・支援策<br>地域の人口流入・増加にともなって、様々な価値観の生徒・保護者に学校は対応していかなければならない。また地域が変わっていくことは、同時に子ども達の世界も変わっていくことが予想される。集団に入りにくい子どもや困りを抱えている子どもに丁寧に対応していくためには、教職員の働き方改革とも連動して学校組織全体で取り組んでいく必要がある。また感受性の高い子どもたちと関わっている中で大人・保護者の言動、教職員の言動によっていじめの種を生んでいないかを常に振り返ってほしい。 |